ミューズ No. 40　平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2018 年 11 月
編集：安斎育郎、山根和代
イラスト：戸崎恵理子、Pegge Patten
事務局：戦争と平和の資料館ピースあいち　宮原大輔
住所：〒465-0091　名古屋市名東区よもぎ台 2-820
Tel & Fax: 052-602-4222

第 17 回平和博物館・市民ネットワーク全国交流会報告
市民ネットワーク事務局 宮原大輔

第 17 回平和博物館・市民ネットワーク全国交流会は 2018 年 9 月 8 日、9 日と二日間にわたってひめゆり平和祈念資料館（初日はひめゆりピースホール）で開催されました。参加者は合計 54 人（うちひめゆり関係 12 人）でした。各館の報告では全部で 11 件の報告があり、質疑応答がなされまし た。報告者のほかに、沖縄県平和祈念資料館館長・原田直美さん、ひめゆり平和祈念資料館前館長・島袋淑子さん、また愛知県から「美ら島沖縄大使」の名古屋市立大学大学院人間文化研究科の阪井芳貴さんが、それぞれご挨拶をいただきました。

また、沖縄愛楽園から自治会長・金城雅春さんをはじめ学芸員など 4 名の方の参加がありまし た。

ひめゆり平和祈念資料館の「平和講話を糸口にした次世代継承」の講話と意見交換や戦跡フィールドワークはとても充実した内容でした。多くの館でいかに戦争体験を継承するかが課題となっている今日、共通する大切な部分を共有できたのではないでしょうか。

懇親会は普天間館長さんたちによる沖縄の祝いの舞踊「かぎやで風」ではじまると、会場の気分が一気に高まりました。

Erico

なお、交流会の冒頭に、「平和のための博物館国際ネットワーク」（INMP）新ジェネ

ラル・コーディネータの安斎育郎氏から、INMP の実情報告と入会の呼びかけがなされました。

今回の交流会では、フィールドワークのバスのチャーターやそのほかの経費でも、ひめゆり平和祈念資料館で多大なご負担をいただいたことを報告いたします。今回の交流会はひめゆり平和祈念資料館のスタッフのみなさんあげての準備によって首尾よく開催されました。

交流会の直前に開かれた運営委員会では、まず、交流会の運営、司会の分担について取り決めました。司会には満蒙開拓平和記念館館長の寺沢秀文さん、NPO 中帰連平和記念館理事・事務局長の芹沢昇雄さんに加わっていただきました。続いて 2019 年度の開催について協議し、中帰連平和記念館がその受け入れを引き受けていただき、企画案が提案されました。日時は 2019 年 10 月 26-27 日を第 1 候補、10 月 19-20 日を第 2 候補とすることになりました。会場としては国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町、東武東上線武蔵嵐山駅より徒歩 12 分）が予定されています。フィールドワークとして、原爆の図丸木美術館、中帰連平和記念館の見学が予定されていますが、交通（輸送）方法が検討課題となっています。

運営委員会で議論が続いているメーリングリストの運営やミューズ（Muse）のウエブサイトへの掲載については、宮原事務局長は、この問題に関する討論者の間での結論の取りまとめを要請し、まとまらない場合は事務局として他の方法を執るとの見解を述べました。来年以降、交流会参加費を現状の 500 円から 1,000 円に改訂し、その中から一部を山根和代ミューズ編集委員から要望のある翻訳者への手当てとして支出することとしました。

長年事務局を担当してきた宮原氏は、本年 5 月にピースあいち館長に就任したことから、改めて事務局の交替について要請がありました。

●会計報告

●会員 2018 年 9 月 7 日現在 83 人 年度中の入会・退会 なし

●事業報告ニュースの発行

ミューズ第 38 号、2017 年 12 月

ミューズ第 39 号、2018 年 7 月

Muse No.36、2018 年 1 月

Muse No.37、2018 年 8 月

第 16 回全国交流会の開催：立命館大学国際平和ミュージアム（京都）にて、参加者 39 人（2017 年 12 月 9 日、10 日）

●体制 運営委員（10 人） 浅川保、池田恵理子、石橋星志、梶慶一郎、 福島在行、宮原大輔、山辺昌彦、渡辺賢二、 芹沢昇雄、寺沢秀文 事務局 宮原大輔（ピースあいち） 編集委員 安斎育郎、山根和代、山辺昌彦

●事業計画

ニュースの編集発行: ミューズ 2 回、Muse2 回

2019 年第 18 回全国交流会の開催 （埼玉、NPO 中帰連平和記念館）

ネットワーク交流会は、沖縄タイムス、琉球新報、RBC（琉球放送）が取り上げました。RBC は下記ＵＲＬよりご覧になれます。
https://www.rbc.co.jp/news_rbc/%e3%81%b2%e3%82%81%e3%82%86%e3%82%8a%e5%b9%b3%e5%92%8c%e7%a5%88%e5%bf%b5%e8%b3%87%e6%96%99%e9%a4%a8%e3%80%80%e5%85%a8%e5%9b%bd%e3%81%a8%e4%ba%a4%e6%b5%81/
またはこちらでも、
https://www.youtube.com/watch?v=wyzZZuSjMxM

平和学ぶ取り組み紹介
全国交流会 博物館関係者が報告

沖縄タイムズ 2018.9.9 （丸山豊氏より）

「第 17 回　平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」を終えて

ひめゆり平和祈念資料館・学芸員
前泊克美

去る 9 月 8 日・9 日、ひめゆり平和祈念資料館で「第 17 回平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」を開催いたしました。台風 21 号の影響により、山根和代さん不参加という残念なアクシデントもありつつも、最終的には、館職員も含めて、合計 54 人の参加となりました。両日で計 11 報告あり、フィールドワークなど充実したプログラムになったと思います。初の沖縄開催、受入で緊張も伴いましたが、2 日間無事に開催できたことを感謝いたします。

1. 報告＆意見交換

初日は、安斎育郎先生（INMP）、池田恵理子さん（wam）、伊藤和久さん（NPO 法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会）、浪指拓央さん（いたばしピースミュージアム）、芹沢昇雄さん（NPO 中帰連平和記念館）、蓮沼佑助さん･安田和也さん（第五福竜丸平和会館）、坂井栄子さん・赤澤ゆかりさん（ピースあいち）、当館の普天間（ひめゆり平和祈念資料館）が、2 日目は岡村幸宣さん（丸木美術館）、浅川保さん（山梨平和ミュージアム）、寺沢秀文さん・木村多喜子さん（満蒙開拓平和記念館）が報告しました。

栄町市場をガイドする仲田さん
（丸山豊氏撮影）

国際的な連帯の重要性、史資料の記録化などのデジタルアーカイブス、次世代への記憶の継承について、被害性と加害性、平和博物館の新しい在り方や地域に根ざした活動など、テーマは多岐に渡り、質疑応答も活発になされました。全国各地での様々な取り組みには、大いに励まされ、全国交流会の意義を深く知ることができました。

2 日目の報告会後、当館説明員の尾鍋による「平和講話」を、みなさんに「高校生になったつもり」で聞いて頂きました。職員による「平和講話」は、ひめゆり学徒隊生存者による「戦争体験講話」を継ぎ、2015 年からスタートしました。非体験者による継承のかたちのひとつであり、市民ネットのみなさんに聞いて頂くことで、各館の継承の取り組みの実践や課題などについて話題が広がることを期待して組んだプログラムでした。

意見交換・質疑応答では、みなさんから、時間や対象年齢のバリエーションはあるか、事前学習へのアプローチ、映像の本数、講話の内容をどう決定したか、マニュアルはあるか、後継者育成のセミナーなど行っているか、など質問が出ました。感想として、構成がよかった、映像が心に響いた、久々に目頭が熱くなった、短時間でここが何なのかと「人々が暮らしている場所が戦場になった」ということが伝わった、などの声を頂きました。また、右寄りの考え方の生徒でも体験者の話を映像で聞いてショックを受けて呆然としているという話も出て、体験者の映像の持つ強さも改めて実感しました。

みなさんからの質問や意見は、私たちにとって非常に参考になるものでしたが、同時に、市民ネットのみなさんは、同じように悩み、試行錯誤し、課題を同じくする仲間であると、強く再認識することができました。

2. フィールドワーク

①那覇市安里・ミニツアー

初日は、ひめゆり同窓会館をリノベーションした「ひめゆりピースホール」（那覇市安里）で開催しました。現在、栄町市場となっていますが、この一帯には、かつてひめゆり学徒の母校、沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校があった場所です

報告終了後の約 30 分、ひめゆりゆかりの場所のミニツアーを行いました。沖縄戦により、女師・一高女の歴史は途絶えますが、唯一ひめゆり同窓会館だけが、母校の歴史を残す場所として存在しており、ひめゆり資料館の建設の際も、ここが拠点となりました。那覇市立大道小学校の一隅には、女師・一高女の跡碑も建立されています。

②フィールドワーク～ひめゆり学徒隊ゆかりの戦跡をたどる

2 日目の午後「ひめゆり学徒隊ゆかりの戦跡をたどる」フィールドワークを実施しました。朝の集中豪雨で、実施が危ぶまれましたが、午後には雨が上がり、伊原第三外科

壕（ひめゆりの塔の壕）、山城本部壕、荒崎海岸までどうにかたどることができ、バスに戻る途中で雨が降り始めました。ひめゆり学徒隊の足跡を半日でたどることは不可能ですが、荒崎海岸までたどったことで、追いつめられていくつらさ、苦しさを追体験することになったのではないでしょうか。

ひめゆり学徒最期の地　荒崎海岸にて

3. まとめ

今回、市民ネットのみなさまをお迎えできたことは、普段交流会に参加できない職員にとっても、全国に仲間がいることを実感できる大事な経験となりました。このような機会を頂けたことに感謝いたします。終了後も、参加者の方々から、感想やお礼など、嬉しい反応を頂戴いたしました。事務局として、不慣れで行き届かないこともあったと思います。ピースあいちの宮原館長ほか、多くのみなさまに大変お世話になりました。ありがとうございました。

初日の懇親会は、館長の普天間と職員伊佐の「かぎやで風（カジャディフウ）」でスタートしました。沖縄のお祝いの幕開けは必ずこれで始まります。普天間は、この日のために衣装をととのえ、かなり気合いを入れていました！職員一同、交流会をとても楽しみにしていたことの表れです。締めにみなさんと踊った「カチャーシー」は、沖縄では祝い事の最後に、皆で喜びを分かち合うために踊る手踊りです。一緒に踊ったことで、より親近感が増した気がしました。

雨の合間を縫うように実施したフィールドワークの車中で「ひめゆり学徒隊生存者の皆さんは、いつも、亡くなったお友達や先生が守ってくれている、とおっしゃっていました。今日、私たちも守ってくれているのかなと思いました」と話しましたが、実際に、守ってもらえたような気持ちになっていました。心配したのか、初日には前館長の島袋淑子も飛び入り参加してくれました。私たちひめゆり資料館職員は、生存者の思いや亡くなった方々の無念さを忘れず、館長の普天間を中心に活動を続けて参ります！！　今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

ひめゆりの記憶 継承報告

非体験者の模索紹介

NHK受信料 全額免除へ

沖縄タイムズ　2018.9.11
（丸山豊氏より）

アウシュビッツ平和博物館

館長　小渕真理

混声合唱組曲「悪魔の飽食」全国縦断コ

ンサートは 1995 年埼玉公演に始まり今年の富山公演で第 28 回になりました。第 19 回の福島公演を白河で開催し、海外公演は中国・韓国・ポーランド・チェコ・ロシアなど 8 回、今年は全国から 250 人が参加し、バルト三国エストニアのタリン・リトアニアのヴィリニュス二ヶ所で公演しました。歌い終わると拍手とスタンディングオベーションが続きました。

バルト三国は 18 世紀からロシア帝国による支配が 200 年も続き、1919 年に独立をはたすも第二次世界大戦でソビエトが侵攻、その後ナチス・ドイツに占領されます。1989 年三国を結ぶ 600 キロ以上、200 万人の人々が国境や民族を超えた人間の鎖が繋がり「歌う革命」として独立を果たします。

リトアニア・カウナスにある杉原ハウスを見学しました。当時の在カウナス日本領事館の建物が記念館として利用されています。5 つに分かれた展示室に、ビザ発給関連資料や解説パネルがあり、杉原ビザで救われたユダヤ人の証言映像も視聴できます。また、杉原が執務をしていた部屋が再現されています。年間 4000 人の来館者があるそうです。

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）

池田恵理子（名誉館長）

2018 年は性暴力と闘う女性たちの活動が脚光を浴びた年になりました。＃MeToo 運動が世界に広がり、ノーベル平和賞には性暴力被害者の治療・支援にあたってきたコンゴのデニ・ムクウェゲ医師と、イラクで IS による性暴力被害を告発してきたナディア・ムラドさんに授与されます。ムクウェゲ医師は 2016 年に来日した折、wam で女性国際戦犯法廷のビデオや展示を見て、「慰安婦」被害者の証言と加害責任を問うことの重要性を語ってくれた人でした。

ところが性暴力問題では後手に回っている日本では、＃MeToo 運動もなかなか浸透しません。そこには、長らく「慰安婦」問題を否定し続けてきた日本政府の姿勢が影響を与えていると思います。政府は「慰安婦」のシンボルともいえる「平和の少女碑」を世界に増殖させてはならじ…と、撤去を求めて各国に圧力をかけてきました。日本を含むアジア 8 ヵ国が共同申請したユネスコの世界記憶遺産への『日本軍「慰安婦」の声』

に対しても、何とかこの登録を阻止しようと必死です。

こんな中で wam はこの 10 月、上智大学の 3 機関との共催で「アルゼンチン　正義を求める闘いとその記録」シンポジウムを開き、軍事政権の国家犯罪を告発する 3 人の女性を日本に招きました。息子を強制失踪で奪われたノラ・コルティーニャスさんは「5 月広場の母たち」を創設し、抗議行動を続けています。秘密拘禁施設で性奴隷にされたグラシエラ・ガルシア・ロメロさんは公開証言を始め、裁判の原告になりました。ベロニカ・トラスさんは人権侵害の記録や記憶を保存する市民アーカイブズの仕事に専念しています。

アルゼンチンは 40 年前の公権力による性暴力を人道に対する罪として裁いている国です。彼女たちの闘いの記録は、ユネスコの世界記憶遺産にも登録されました。私たちはアルゼンチンの経験に多くを学ぼうと思い、今回の企画を立てました。その狙い通り、3 人の女性たちは感動的な体験談を語ってくれました。それだけでなく、短い滞在期間中に、文科省前の朝鮮学校差別化への抗議集会や沖縄での反基地闘争、「慰安婦」支援団体が月に 1 回新宿で行っている「水曜行動」などにも積極的に参加して、熱いメッセージを送ってくれたのです。11 月 10 日には、ユネスコの世界記憶遺産への登録に向けて、世界各地から専門家を招いた学術会議も開催しました。ここでもいくつものヒントと情報をいただきました。

熱く語る　アルゼンチンの闘う女性たち。88 歳のノラさんは、失踪した息子の写真を胸に掲げている。上智大学／2018 年 10 月 13 日　【写真提供】wam」

日本国内で「慰安婦」問題というと、政権とそれに追随するメディアによって「過去の問題」にされがちです。問題は何ら解決されていません。国境を越えた温かく心強い連帯と、良識ある人々の知恵と励ましをいただいた私たちは、ここで怯んだり嘆いたりはできません。これからも「慰安婦」の記録と記憶の収集・保存・公開に向けて前進していきます。

わだつみのこえ記念館

山辺昌彦

わだつみのこえ記念館は 2018 年 11 月 5 日～12 月 8 日の会期で企画展「戦没学生と文芸」を開催しています。記念館が収集した戦没学生の遺稿の中から、和歌、詩、戯曲、スケッチなど文芸作品を選んで展示するものです。残された言葉から、若者たちの喜び、嘆き、怒り、悲しみをくみとって、その短かった青春を追想、追悼していただけたらと思います。井上淳、池田浩平、稲垣光夫、奥村克郎、加田勉、北川智、久保恵男、佐々

木八郎、関口清、田辺利宏、中尾武徳、蜂谷博史、林尹夫、原亮、松永茂雄、松永龍樹、柳田陽一、山隅観、鷲尾克巳、渡辺直己の遺稿を展示しています。このうち、蜂谷博史の遺稿は今回初めて遺族から提供されたものです。加田勉の遺稿データは熊本大学五高記念館から、林尹夫の遺稿データは立命館大学国際平和ミュージアムから、それぞれ提供されたもので、それから印刷したものを展示しています。全展示史料の画像と翻刻を収録した図録を刊行しています。頒価500円、送料100円でおわけしています。
http://www.wadatsuminokoe.org/home

企画展「辺野古新基地問題、山梨と沖縄・沖縄戦」を開催中

山梨平和ミュージアム・理事長
浅川　保

山梨平和ミュージアムでは、現在、企画展「辺野古新基地問題・山梨と沖縄・沖縄戦」を開催中です。今年の11月末まで。以下、展示のねらいと展示概要です。関心のある方、おいでください。

＜展示のねらい＞　2010年秋～11年春、私たちは、企画展「沖縄戦を考える」を開催、沖縄戦とは何か、山梨と沖縄戦などについて、問題提起を行ってきました。それから、8年、この間に、2013年1月、沖縄41市町村長・議会議長・県議会各会派の長が署名した「オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設断念を求める建白書」の安倍首相への提出、14年11月に「新基地建設反対」を公約に掲げた翁長雄志氏の知事当選等々の民意を無視して、辺野古移設・新基地建設が強行されようとしています。今の沖縄の現状は、日本国憲法の平和主義・国民主権の尊重、地方自治の趣旨からいって大きな問題であり、沖縄差別と言わざるを得ません。8年前の企画展「沖縄戦を考える」を踏まえつつ、今回は企画展「辺野古新基地問題・山梨と沖縄・沖縄戦」として、下記の内容で展示しています。

＜パネル展示＞

1　辺野古基地問題を考える　○辺野古移設は唯一の解決策か　○辺野古新基地は作れない　○なぜ“最低でも県外”は頓挫したか　○瀬長亀次郎の生涯　○沖縄は訴える－基地地図

2　山梨と沖縄・沖縄戦　○第49兵站地区隊本部の歴史　○平和の礎と山梨出身刻銘者○昭和高女学徒隊と八巻太一　○沖縄もう一つの甲斐の塔　＜実物資料＞　○山中幸作さん関係資料　○琉球新報　○沖縄県・名護市役所資料　○不屈館資料他　他に＜参考文献＞20冊ほど。

なお、6月4日の朝日新聞山梨版に、企画展のことが紹介されました。

2018 年度秋季特別展「8 月 6 日」平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築プロジェクト成果展示企画

国際平和ミュージアム専門委員
山根和代

戦後 73 年が経ち戦争体験者が減少する中で、体験継承の重要性が唱えられていますが、博物館はどのように戦争体験にアプローチすることができるのでしょうか。本展では、“8 月 6 日”を手がかりにふたつの展示から考えます。

「レプリカ交響曲《広島平和記念公園 8 月 6 日》(2015)」は、2015 年 8 月 6 日、戦後 70 年目の広島平和記念公園の 1 日を 17 地点で撮影し、17 台のモニターに映し出すインスタレーション作品です。そこに浮かび上がる情景は多様であり、多層的です。同時にそれは、戦争体験継承の多様性、多層性を表すものでもあります。

「8 月 6 日のワンピース」は、1945 年 8 月 6 日、学徒勤労動員中に被爆し、同 12 日に亡くなった木村愛子さんのものとして保管されていたワンピースを中心にした展示です。このワンピースは、戦没動員学徒の追悼施設を経て当館に引き継がれました。ここでは、愛子さんの爆心地での体験に近づくことを試みるとともに、遺されたワンピースを介してこれまで何が共有されてきたのかを再考します。

また、来館者が展示の中で感じたこと・考えたことをアウトプットするための空間を展示室内に設けます。

過去と現在の“8 月 6 日”の展示を通じて、来館者が主体的に戦争体験を想像し反芻する行為を促すことに、博物館における戦争体験継承のひとつの可能性を示します。この展示は、JSPS 科研費 16K12814「平和博物館における戦争体験継承のための展示モデル構築」(2016-2018)の助成を受け、プロジェクトの成果として実施するものです。

会期 2018 年 11 月 6 日(火)～12 月 16 日

（ホームページより）

長岡京市バーチャル平和祈念館

◇日本における戦争終結から 70 年以上が経過し・・・

➡問題：戦争体験者の減少／失われつつある戦争に関する資料

◇未来の平和のためにどうにかして伝えたい・・・

そうだ！インターネットを使えば消えることがない！

◇長岡京市バーチャル平和祈念館の開設効果

- インターネットが使えれば、いつでも、どこでも、誰でも見ることができる
- 戦争に関する体験記、資料、平和教材の閲覧によって平和意識を高めることができる
- 戦時中の記録を残すことができる

皆様、ぜひぜひご利用ください！

http://www.city.nagaokakyo.lg.jp/category/13-0-0-0-0.html

（ホームページより紹介します。山根）

高知の反戦詩人「槇村浩に学び、今を生きる」

草の家・副館長
岡村啓佐

反戦詩人槇村浩が 1938 年 9 月 3 日（享年 26 歳）に、治安維持法による投獄と拷問が原因となって亡くなってから 80 周年になります。平和資料館・草の家では「北は小林多喜二、南は槇村浩」と誇りをもって紹介しています。

槇村浩は戦後しばらく忘れられていましたが、1963（没後 25）年頃より顕彰運動がはじまり、1969 年には墓をつくり、1988（没後 50）年には「間島パルチザンの歌」の詩碑を公有地である城西公園に移設、2003（没後 65）年に改修。生誕 100 周年には中国間島地域の延辺に「槇村浩を訪ねる旅」を計画するなど、節々に槇村浩から学び継承する企画を取り組んできました。

今年の、槇村浩没後 80 周年記念事業では、写真展「槇村浩と高知の反戦活動家たち」と墓前祭、そして三浦健治氏（詩人・評論家）をお招きし「槇村に学び 今を生きる」と題して記念講演会を開き 119 名が真剣に耳を傾けました。

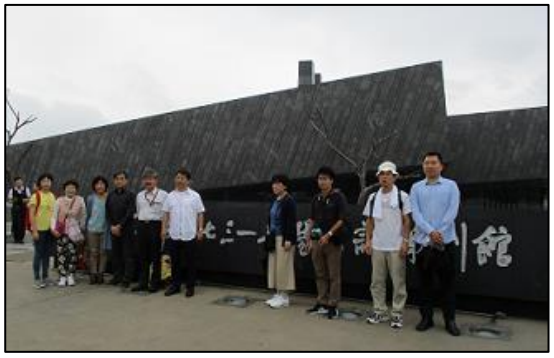
平和資料館・草の家は 2019 年 11 月 11 日、創立 30 周年を迎えます。南北朝鮮半島における劇的な平和・友好への動きを大歓迎するとともに、朝鮮半島の分断の原因をつくった過去の植民地支配と侵略戦争について、過去の過ちを繰り返さないという市民レベルでの交流を深めていくことを目的に、写真展「槇村浩と高知の反戦活動家たち」と題した写真展と講演会を韓国ソウルにて開催し、暗黒の時代に侵略戦争に命がけで反対した高知の青年たちを、8 月 15 日（光復節）を挟んで紹介する準備に入りました。

また写真展の企画に先駆けて、2019 年 3 月 1 日（三・一運動）の日を挟んで韓国平和の旅を計画し、東アジアに平和の風を市民レベルから起こしていきたいと今意気込んでいる平和資料館・草の家です。

岡まさはる記念長崎平和資料館

事務局長　崎山昇

7 月 8 日、平和公園にある浦上刑務支所中国人原爆犠牲者追悼碑の前で、二人の遺族、王洪傑さん（祖父が端島炭坑で死亡）、王金華さん（祖父が浦上刑務支所で原爆死）を招き、約 30 人が集まり、建立 10 周年記念追悼式が行われました。主催は「長崎の中国人強制連行裁判を支援する会」と「中国人原爆犠牲者追悼碑維持管理委員会」でしたが、資料館も中国人強制連行問題の重要性を認識し取り組んできました。前日には「日本の戦争加害に向き合い「真の日中友好」を考える」シンポジウムも行われました。7 月 21 日、「第 3 回岡正治さんを語る会」を開催しました。園田理事長をはじめ 11 人が集まり、映像で岡正治さんの生涯を振り返り、参加者で語り合いました。1 年間頑張っていこうという気持ちを確認する会になりました。8 月 9 日、長崎原爆朝鮮人犠牲者追悼碑前で、約 200 人が集まり、長崎在日朝鮮人の人権を守る会主催の追悼早朝集会が開催されました。8 月 28 日から 9 月 2 日にかけて、「中国に学ぶ旅」を派遣しました。募集大学生 2 人を含む 8 人が、日本軍による中国侵略の被害について学ぶ、友好提携関係にある「七三一部隊罪証陳列館」との交流を深める、真の日中友好をめざすことを目的に、瀋陽、哈爾浜、大連、旅順を訪れました。



ひめゆり平和祈念資料館

学芸課　前泊克美

9 月に開催した「第 17 回平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」には、多くの方が足を運んで下さり、報告も盛りだくさんで、とても充実した会となりました。ひめゆり資料館は、4 月に普天間が館長に就任し、新しい体制でのスタートをきったばかりです。その節目の年に、みなさんを沖縄にお迎えできたこと、無事に開催できたことで、新体制にも弾みがついたと思っています。遠く沖縄までいらして頂いて、本当にありがとうございました！

さて、8 月には、ひめゆり平和研究所の初めての大きな企画として、アンネ・フランク・ハウスとの共同プロジェクト「メモリーウォーク」を開催しました。若者たちが「モ

ニュメント（記念碑）」について学び、主体的に調査・取材し、映像を制作することで、自らが伝える側になっていくというワークショップです。全国から 14 人の大学生らが参加しましたが、彼らにとって、この機会は、沖縄戦を、より「自分事」としてとらえる体験となったようです。

また、今年初めて、夏休み企画として「夏休み親子フィールドワーク」を 2 回開催しました。県内外から親子連れが計 20 人参加し、伊原第一外科壕などでひめゆりについて学びました。ほかに「糸満市平和ガイド育成事業」（小中学生対象）や「沖縄県通訳案内士スキルアップ研修」の受入など、様々なかたちで、広げていく取り組みを進めています。

さらに、YouTube など、若い世代にとって映像がかなり身近なものとなっていることに着眼して、平和研究所の事業として「"ひめゆり"を伝える映像作品コンテスト」を開催しています。「ひめゆり学徒隊」をテーマにした映像制作（内容は、ドキュメンタリーやアニメーション、ダンスなどのパフォーマンスなど自由！）を足がかりに、ひめゆり学徒隊や沖縄戦について興味を持ってもらおうという企画です。

当館では、様々な取り組みを通して、また、みなさんとの情報交換や交流を深めながら、「次世代継承の取り組み」を進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102
HP　http://www.himeyuri.or.jp
FB
https://www.facebook.com/HIMEYUIRI.PEACE.MUSEUM/

沖縄戦…遺品からの学びのネットワークを

沖縄戦遺骨収容国吉勇応援会

那覇在住の国吉勇氏は沖縄戦後全県の壕に入り、その中に眠る遺骨・遺品を収容してこられました。約 60 年間、ほぼ毎日収容した遺品は十数万点に上り、既に県内の資料館に寄託した一部を除く全てを、私設の戦争資料館で保存されています。その中には日本軍の武器や医療器具の他、タンスの部品や食器など、壕内における民間人の方々の暮らしを伺える遺品、さらにはコンドームや遊郭関連の物品など慰安所の存在を窺わせるものも含まれています。これらの遺品は全て国吉氏が独力で保管されてきまし

たが、氏が高齢であり、また物品の経年劣化が激しいことから、これ以上個人の力で保存するのは難しい状況です。私たちは、3 年前「沖縄戦遺骨収容国吉勇応援会」を起ち上げ、国吉さんのヒアリングを行う一方、関西を中心に延べ 40 を超える地域で「遺品が語る沖縄戦」を開いてきました。遺品展は大きな反響を呼び、「モノから学ぶ」ことの大切さを再認識しました。そこでこれらの遺品を沖縄県内外の平和資料館に寄託することを考えています。それにより、高度な保存技術で沖縄戦の貴重な遺品を守ることが出来るのに加え、遺品を科学的に分析し、これまでのような戦争体験談を基盤とするものとは違ったアプローチによる沖縄戦史研究が可能になると考えています。また沖縄戦のことを学ぶ機会の少ない内地で沖縄戦遺品を展示することも意義深いと考えています。是非遺品の受け入れの検討をよろしくお願いいたします。

https://ja-jp.facebook.com/okinawakuniyoshi/

戦争と平和展　（ホームページより）

出版情報

絵本『花ばぁば』
クォン・ユンドク著、桑畑優香訳
（ころから出版）

かつて日本軍の「慰安婦」とされた韓国人女性をモデルとした絵本『花ばぁば』は、日・中・韓の絵本作家が手がける「平和絵本シリーズ」（全 11 冊）の中の 1 冊で、韓国の絵本作家クォン・ユンドクさんの作品です。しかし、これまで、日本では出版社の意向のためシリーズの中でこの絵本だけが刊行されずにいました。今年やっと別の出版社から出版に漕ぎつけました。

田島征三さんは、「国境を越えて痛みを分かち合うために―日本軍の「慰安婦」にされた花ばぁばの物語」「この絵本を一番必要としているのは、ぼくたちであり、若い人たちだと思う」と帯に書いています。

（丸山豊氏より）

ヒロシマをのこす
平和記念資料館をつくった人・長岡省吾
佐藤真澄／著（汐文社）

原爆のむごさを今に伝え、「ノーモア・ヒロシマ」を静かに訴えかける広島平和記念資料館（原爆資料館）は、ひとりの男の執念と努力によって誕生した。誕生秘話、そして、初代館長の知られざるエピソードを紹介。

核兵器禁止条約を使いこなす
安斎育郎・林田光弘・木村朗著
（かもがわ出版）

原水爆被災者をはじめとする多くの人々の願いを反映して、2017 年 7 月 7 日、国連が「核兵器禁止条約」を採択し、現在批准過程にあります。本書はこの条約成立の歴史的背景や意義について、原水爆禁止運動に 40 年以上に渡って取り組んできた安斎育郎氏が、核兵器禁止国際署名運動のリーダー林田氏と鹿児島大学の政治学者・木村朗教授とともに 2018 年 8 月 6 日に発刊したものです。核抑止論のおかしさを鋭く分析しています。

編集後記

『ミューズ』は市民ネットワークのメンバーの「世界へのアピール媒体」です。英語版“Muse”も発刊されていますから、文字通り「世界に通じる広場」です。奮って寄稿して下さい。

11 月 8 日・9 日、ピースおおさかで「第 25 回日本平和博物館会議」が開かれ、活発な協議が行われました。

今年から「平和のための博物館国際ネットワーク」（INMP）の事務局は日本（立命館大学国際平和ミュージアム）に移り、2020 年には第 10 回大会が日本で開催されます。市民ネットや日本平和博物館会議の場を通じて新たに INMP 会員となる人も増えています。

互いに連携しましょう。

投稿大歓迎

◆字数：５００字を目安に
◆願わくは写真を１～２枚
◆期限：随時受け付けます

〈原稿送り先〉
編集委員へ
musejapankyoto@gmail.com